

ブラジルでの省エネを進展させるための事業を実施しています（第3報）

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託を受けブラジルで「節電・ピークカット」を通じた省エネに貢献するため、2015年1月から以下の取組みを実施しています。（近年の干ばつで主力電源である水力発電の出力が低下した事による電力の供給不足と高価格化に対応）

- (1) 協力工場（5業種5工場）におけるモデル的エネルギー管理システムの構築
- (2) 連邦政府やサンパウロ州)政府によるエネルギー管理規則の策定や省エネ推進支援制度の設計
- (3) 節電・ピークカットのためのアクションガイドの策定と普及。（日本の節電マニュアルを参考）



日本でのワークショップ（2016年1月）：参加者、工場見学、活動計画の発表

先報で報告した活動に引き続き、本事業に係る連邦政府の開発商工省(MDIC) (カウンターパート) と鉱山エネルギー省(MME)やサンパウロ州政府の高官、産業団体 (国家産業連盟(CNI)やブラジルエネルギー等多消費産業協会 (ABRACE))のトップ及びモデル的エネルギー管理システム構築に協力する企業の代表等の意思決定権者 13 名を招請し、日本でワークショップを2016年1月21日から29日まで実施しました。

このワークショップで、3つの取組みの進捗と課題を明確にし、課題解決策の具体化を含め各取組みの活動計画をアウトプットとして策定しました。このため次のように段階的に実施しました。

ステップー1：ブラジル側の本事業に係る EnMS 構築の進捗、省エネ制度の現状や課題の共有

ステップー2：日本側からのインプット（講義、工場見学や情報・意見交換及び助言による）

ステップー3：グループ討議と活動計画策定

ステップー4：活動計画の発表・討議と今後の事業実施方針の確認

この計画に基づき、ワークショップ後も活動を継続しています。協力企業はブラジルを代表する世界的なコングロマリットや米国等の世界を代表する企業であり、政府側の制度整備や CNI が提案する本事業に整合する自主的な「産業省エネプログラム」を通じ普及の効果が期待されます。今後も事業の完成を目指し活動を継続する予定です。